

長崎市提案型協働事業提案企画書

団 体 名	NPO 法人ながさきエコネット
提案事業の名称	茂木南部地区における市民も参加できる営農環境の保全事業
提案事業の目的	<p>私たちは、多様な主体との協働による環境保全活動及び環境啓発活動の実践など長崎市の持続可能な地域社会の構築に資する事業に取り組んでいます。本事業では茂木南部地区：大崎集落の「人・農地プラン整備計画」に準拠し、大崎集落の市民活動を支援し、日本一のびわ産地を維持するために営農環境の保全と人の交流を創る環境を構築します。</p>
課 題 の 緊急性・重要性	<p>平成28年に人・農地プランが10地区24集落で策定され、各集落においてプランの実現に向けた展開が進められています。本提案事業の実施地区である大崎集落はびわの産地（びわ畑は傾斜地にあり営農作業は大変だということでした。）ですが、高齢化によって生産者の減少、それに伴う放任農地の増加が起きており、びわの木を守り収穫可能な状態を維持していくためには営農環境の保全が早急に必要です。</p> <p>これらの状況は生産量の減少につながるため、「日本一の茂木びわ」のブランド維持ができなくなり（収穫量が最大3,000tだったのが現在は500tまで減ってきていると聞きました。）、さらなる集落の活力の減少につながってしまいます。今すぐ、地域が持続可能であるための活力を高めていくことが重要です。</p>
協働の必要性	<p>長崎市は今後の農業の目指すべき姿とその実現方法を示すため、「長崎市農業振興計画〔後期計画〕」を策定しています。その中で、計画の推進体制としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生産者・地域等 ● JA・関係団体等 ● 行政（長崎市・長崎県・国の連携） ● 市民 <p>の4者の連携による農業の新たな活力創出を掲げています。</p> <p>しかし、大崎集落には【市民】に求められる役割が高齢化・過疎化等により弱ってしまっています。私たちが持つ経験や意欲をもってこの【市民】の役割の一部を担う必要があります。</p>
協働による 相乗効果	<p>活動を円滑に推進していくためには基となる計画と地域と活動団体の関係づくりが重要であり、行政（長崎市農林振興課）や生産者・地域のみなさんと連携・協働することで活動を推進する力が生まれます。大崎集落の生産者・地域と行政とが一緒に創り上げた計画の実行が弱いという点を私たちが支援することで実現可能性が見えてきます。また、地域の環境整備等を進めていくためには、行政関係の多様な部署とのつながりづくりや人の交流（訪問）のための広報宣伝等が必要であり、協働によって事業の推進を高める効果が期待できます。</p> <p>私たちにとっては、環境活動を農業分野に展開していく足掛かりとなります。</p>

<p>協働の役割分担</p>	<p>1 提案団体が果たそうとする役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人を呼べる営農環境に向けた整備 ● 人が交流（訪問）する活動の企画・実施 ● 活動を継続していくための主体の構築（と参加） <p>2 本市に期待する役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 活動実施に係わる地域との連携サポート ● 地域づくり関係部署との橋渡し ● 市外、海外からの来客者を迎えるためのビジョンづくり
<p>提案事業の内容</p>	<p>1. 営農環境整備活動 目標：営農環境の再生 成果：放任農地の市民参加型農園化、関係者間の役割分担の確立 内容： ① 放任農地の整備（草刈り、アプローチ整備、安全確保）（5回） ② 持続的な営農に向けた関係者間の役割分担の確立（議論）（6回） ③ オーナー制度のスキーム確立（事例調査）</p> <p>予算額：500千円</p> <p>2. 訪問者を創り出す活動 目標：収穫体験・営農活動イベントの確立 成果：イベント企画の評価 内容： ① 個人やグループを対象とした農産物収穫や営農作業の体験（4回） ② シェアリングネイチャーを使った活動（2回） ③ 広報 ④ 日本一のびわ産地維持に向けた活動の価値を評価（アンケート調査）</p> <p>訪問者としては、家族（夫婦、親子）、子どもグループ（学校、学童保育所、福祉関係）、大人グループ（仲間、活動団体）、担い手（若者）等が考えられます。本事業ではグループとしての学童保育所を参加対象の一つとし、子どもたち及びその保護者と指導者に体験モニタとして参加してもらいます。指導員に対してはグループ参加として、保護者には家族としての参加についてヒアリングやアンケートにより調査を行います。個人での参加の場合はそれぞれに調査します。</p> <p>予算額：300千円</p> <p>3. 持続的活動へ向けた主体づくり活動 目標：収益確保に向けた事業化を担っていく主体の構築 成果：関係者間のつながり、将来像の共有 内容： ① 定期的な議論（6回）</p> <p>予算額：90千円</p>

<p>提案事業の実施体制</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総括責任者 蒲原新一（副代表理事） 2. 個別事業責任者 <ul style="list-style-type: none"> ● 営農環境整備活動 蒲原新一 ● 訪問者を創り出す活動 奥村公子 ● 持続的活動へ向けた主体づくり活動 宮原和明 3. 事業実施にあたっての専門性やノウハウ <p>総括責任者の蒲原は平成 29 年から大崎集落の関係者と交流があり、地域の環境整備活動等に参加しています。また、本事業で対象とする学童保育所とのつながりを持っています。奥村はシェアリングネイチャー指導者の資格を持っています。宮原は私たちの団体が NPO 法人となる前段階のながさきエコネットのネットワーク構築事業を長崎市提案型協働事業において実施した経験があります。その他、私たちの仲間には環境活動に関連する活動やノウハウを持った多様な個人・団体がいます。</p> 																				
<p>事業スケジュール</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>第 1 四半期 4 月～6 月</th> <th>第 2 四半期 7 月～9 月</th> <th>第 3 四半期 10 月～12 月</th> <th>第 4 四半期 1 月～3 月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>営農環境整備活動</td> <td>準備・整備活動実施</td> <td>調整・準備</td> <td>整備活動実施</td> <td>調整</td> </tr> <tr> <td>訪問者を創り出す活動</td> <td>準備・収穫体験実施・アンケート調査</td> <td>調整・準備</td> <td>営農体験実施・シェアリングネイチャー実施・アンケート調査</td> <td>次年度へ向けた準備</td> </tr> <tr> <td>持続的活動へ向けた主体づくり活動</td> <td>4 月、6 月実施</td> <td>8 月実施</td> <td>10 月、12 月実施</td> <td>2 月実施</td> </tr> </tbody> </table>		第 1 四半期 4 月～6 月	第 2 四半期 7 月～9 月	第 3 四半期 10 月～12 月	第 4 四半期 1 月～3 月	営農環境整備活動	準備・整備活動実施	調整・準備	整備活動実施	調整	訪問者を創り出す活動	準備・収穫体験実施・アンケート調査	調整・準備	営農体験実施・シェアリングネイチャー実施・アンケート調査	次年度へ向けた準備	持続的活動へ向けた主体づくり活動	4 月、6 月実施	8 月実施	10 月、12 月実施	2 月実施
	第 1 四半期 4 月～6 月	第 2 四半期 7 月～9 月	第 3 四半期 10 月～12 月	第 4 四半期 1 月～3 月																	
営農環境整備活動	準備・整備活動実施	調整・準備	整備活動実施	調整																	
訪問者を創り出す活動	準備・収穫体験実施・アンケート調査	調整・準備	営農体験実施・シェアリングネイチャー実施・アンケート調査	次年度へ向けた準備																	
持続的活動へ向けた主体づくり活動	4 月、6 月実施	8 月実施	10 月、12 月実施	2 月実施																	
<p>事業の展望及び今後の活動展開</p>	<p>事業を継続していくために、持続的活動へ向けて構築する主体が営農体験活動によってびわや他の農産物の生産量や販売量を確保し収益を得られるようなスキームの確立を目指していきます。そして、提案事業活動の成果をもとに活動状況を広報することにより、営農環境保全へのオーナー制度による市民の参加や、集落外からの営農活動の担い手を引き込んでいきたいと考えています。</p>																				